



いつまで経ってもいつまで経っても、身近にある幸せの光を見ようともせずに、自分の中で塞ぎ込んで泣

わたしには周りが眩しすぎる 守ってくれる存在と沢山の癒みがあれど、眩しすぎて直視できない。